

# おのえづわ



中富良野俵神輿同志会 大注連縄奉納



## ご挨拶

宮司 吉田源彦

北国北海道にもようやく春が訪れて、長い間雪に覆われていた境内にも、とどころに若芽が見られるようになって参りました。生命の芽生えと息吹を感じる頃、皆様方にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、天皇陛下には四月三十日に御譲位あそばされ、平成が終わり御代替りを迎えることとなります。顧みますと平成という時代は、私たちには喜ばしいことも多く、また自然災害などの試練も多い、いわゆる激動の時代でもあったように感じます。天皇陛下におかれましては、その都度国民の心に寄り添い、共に喜び、共に悲しんでくださり、常に国家と国民の安寧を願い祈り続けてこられました。その大御心に我々がどれほど支えられてきたのかと考えると、感謝の念に堪えません。平成という時代は天皇陛下と国民の心とがひとつになった時代といえなくもありません。新帝陛下の新しい御代も、素晴らしい時代となるよう、国民ともども心を一つにして歩んで参りたく存じます。

かかる節目の年に、当神宮におきましても、御鎮齋百五十年を迎えることとなりました。北海道神宮は、明治天皇の思し召しにより、明治二年九月一日に神祇官において「北海道鎮座神祭」が斎行され、北海道開拓の守護神として開拓三神が鎮齋されたことが創祀とされています。その後、明治四年に現在の円山の地に社殿が建てられ、昭和三十九年に明治天皇を御増祀することが許され、北海道神宮と改称し現在に至っています。こ

## 祭典行事案内

毎月

〔二日〕月首祭並吟詠講誕生祭

一日参り(※一月九月を除く)

〔十日〕旬祭並敬神婦人会誕生祭

〔十五日〕月次祭並むすび会誕生祭

〔二十日〕旬祭並興風会献詠祭

### ◆四月

三日 日(水) 午前九時

神武天皇祭遙拝

十日 日(水) 午前十時

天皇皇后兩陛下  
御成婚六十周年  
奉告祭

二十一日(日) 午前十時

開拓判官  
島義勇顕彰祭

の百五十年の間に、札幌、北海道も大きく変わりました。日々の暮らしは豊かになり、街は大きく栄えています。これも開拓の先人のご苦勞は当然のことながら、御祭神の御守護の賜物であることはいまでもありません。北海道神宮では、その感謝の心をもって、この御鎮齋百五十年の佳節にいくつかの記念事業を行ってまいるところです。崇敬者の皆様におかれましては、ご協力を賜り、ともにこの慶事をお祝い頂きますようお願い申し上げます。

最後となりましたが、御讓位に伴う御代替りが行われるにあたり、国民挙って奉祝の誠を捧げるとともに、即位関係諸儀式が皇室の伝統に基づき国家の重儀として行われることを願って止みません。皇室の弥栄と皆様

二十九日(月) 午前十時

御讓位御安泰

祈願祭

並 昭和祭

### ◆五月

一日(水) 午前十時

踐祚改元奉告祭

四日(土) 午前十時

植樹祭

十一日(土) 午後一時半

奉賛会大祭

## 頓宮 札幌市中央区南一条東三丁目

毎月〔二日〕 午後六時

月首祭並二日講社誕生祭

(※一月は午前十時)

### ◆五月

一日(水) 午前〇時

踐祚改元奉告祭

並一日講社誕生祭

### 表紙写真 神門の大注連縄の掛け替え

本年は、天皇陛下御即位三十年、御代替わりの佳節にあたり、さらには北海道神宮御鎮齋百五十年の年であることから、三月二十二日中富良野俵神輿同志会の皆様より、大注連縄が奉納されました。前回は平成二十九年二月十三日に奉納され、今回は二十三日を迎えることとなりました。

当日は小野剛会長、木佐剛三中富良野町長を始め、三十三名の有志の方々の御奉仕を頂きました。第回の奉納は札幌神社(現北海道神宮)の御鎮座九十年と皇太子殿下の御成婚を奉祝して昭和二十四年六月十二日に行われ、今上陛下御即位の際も行われました。大注連縄の掛け替えは概ね四年に一度ですが、かかる節目にご奉納を頂き、御神威の発揚のもと、奉祝の誠が捧げられています。



# 札幌の 都市建設の開始

榎本洋介

なぜ札幌が100年余りの間に大都市になったのか、不思議に思われる方々は多いだろう。その疑問はなぜ札幌という地域に都市の建設が始まったのか、にはじまる。

18世紀にはロシアがシベリアから千島列島や樺太など日本の北方域へ進出し始めた。日本北方域での危機感を承けて田沼意次や松平定信らが蝦夷地問題にあたった。そして蝦夷地の状況を把握するため、山口高品などを蝦夷地へ派遣して調査した。その後、近藤重蔵が開拓と北方警備を兼ねて考察をして石狩要害論を示した。それによると石狩川の水運を利用して全道各地へ向かうことができるといふ利点を考慮して、「イシカリ川筋カバト山、タカシマならびにオタルナ

イの奥、サッポロの西テング山之辺」の3地域を提案した（『新札幌市史』第一巻通史二）。

次いで幕末には外国船の出没が日本近海で頻発し、ついにペリー来航により開国した。その頃、松浦武四郎が6回の蝦夷地踏査の上、札幌・豊平のあたりを大府（開拓の本拠地）の候補地として箱館奉行に提言している（吉田常吉編 松浦武四郎『蝦夷日誌 西蝦夷日誌』第五編凡例）。箱館奉行は大府を造ることとはしなかったが、石狩（札幌辺）へ移民を移住させて開拓を開始した。

明治2年7月8日開拓使が置かれ、長官に鍋島直正、判官に島義勇らが任命され、当初開拓使は石狩府の建設を決定した。しかしロシアが樺太に侵攻し、より切迫した状況が報告され、石狩府建設は一時中断された。明治2年9月はじめに開拓判官島義勇が石狩へ大府を建設する基本の取計のために石狩へ派遣された。島判官の書翰（明治2年10月23日付の松浦たち宛）では、建設予定

地は松浦の見込み通り蝦夷地の中でも適当な地であることを書き送っている（『開拓使公文録』道文5482）。



島 義勇

以上のように、近藤以来石狩に注目し、松浦の提言にある札幌・豊平の辺りに絞られ、島判官に至って札幌が本府（道都）建設地に決まった。ところが、その後札幌の住民たちには違う形で伝わっていた。それは、本府地選定の過程で江別が選ばれていたが、測量者が江別川と豊平川を誤ったという話である（「札幌区の成育（明治四十二年十月北海道毎日新聞）」 河野常吉編『さっぽろの昔話 明治編上』みやま書房）。しかし前記のように松浦武四郎の著述や島判官の



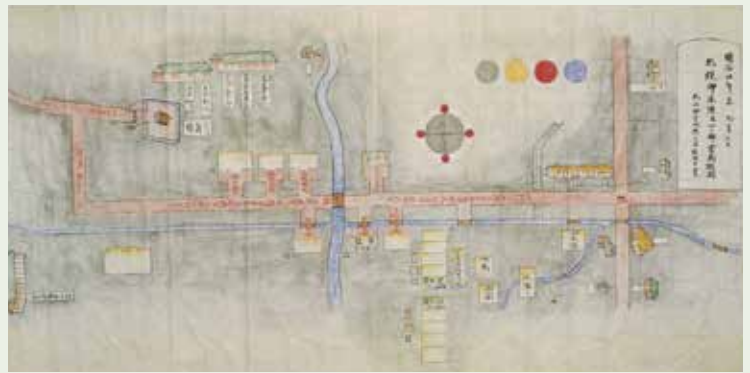
書簡をみると江別決定はない。

そして実際に建設を開始する時は、島判官の4人の部下が、先行して区画の決定のために測量して候補地を選んだようだ（「あれこれとあまりにありすぎて」深谷鉄三郎氏 明治三十一年七月二十七日「まず開拓使と創成川の運送」河野常吉編『さっぽろの昔話 明治編下』所収みやま書房）。そして、11月10日頃に島判官が自ら札幌へ赴きその候補地を検分した後に14日頃から建設を開始した（『御金遣払帳』『新札幌市史 第6巻』所収）。

このようにみてくると札幌の位置づけは、北海道開拓の本拠地（道都）、対ロシアを意識した外交的・軍事的な性格も合わせ持つ開拓の本拠地ともいえる。



石狩大府指図



札幌御本陣及一ノ御宮見取図

そして島判官が札幌を道都としたが、その政治性の強い地位はその後も継続し、北海道では札幌への政治的中枢機能や経済的中枢機能の集積を生み、人口の集中を誘発し、文化的中枢機能の集積をも促した。そのため札幌は北海道では飛び抜けた大都市となってきたのである。



榎本 洋介氏

昭和五十三年三月 北海道教育大学札幌分校卒業。

昭和五十七年三月 東京学芸大学大学院修士課程を修了。

昭和五十七年四月 札幌市の第1種非常勤として新札幌市史編集調査員となる。

昭和六十年四月 札幌市立北辰中学校教諭に就職。札幌市教育委員会文化資料室に異動、新札幌市史編集員となる。

平成二十四年七月 文化資料室が札幌市公文書館となり、その職員となる。

平成二十八年四月 定年退職により札幌市公文書館で再任用職員として現在に至る。

〈主な業績〉

『新札幌市史』第2巻通史2〜第5巻通史5下、第8巻1、II（共著）（平成3年〜平成20年）

北海道史研究協議会『北海道の歴史と文化』北海道出版企画センター（共著）（平成18年）

『明治期近代日本の光と影』同成社（共著）（平成21年）

『開拓使と北海道』北海道出版企画センター（平成21年）

『鳥義勇』佐賀城本丸歴史館（平成23年）

『札幌シティガイド』札幌商工会議所（共著）（平成23年）

北海道史研究協議会『北海道史事典』（共著）（平成28年）

『札幌の地名がわかる本』亜璃西社（共著）（平成30年）など

# 退位の礼関係諸儀式・即位の礼及び大嘗祭関係諸儀式等(予定)の概要一覧

天皇陛下には四月三十日に御譲位あそばされ、五月一日には新帝陛下が踐祚なされ元号があらたになり、それ以後御即位に関わる諸儀式が行われます。ここに予定される関係諸儀式等の概要の一覧をあげさせて頂きました。国民一人ひとりが皇室を敬愛し、奉祝の誠を捧げてまいりたいと存じます。

名称及び概要	期日	場所	備考
○賢所に退位及びその期日奉告の儀 賢所に天皇が退位及びその期日を奉告される儀式	平成三十年 三月十二日	賢所	
○皇靈殿神殿に退位及びその期日奉告の儀 皇靈殿神殿に天皇が退位及びその期日を奉告される儀式	平成三十年 三月十二日	皇靈殿、 神殿	
○神宮神武天皇山陵及び昭和天皇以前四代の天皇山陵に勅使発遣の儀 神宮並びに神武天皇山陵及び昭和天皇以前四代の天皇山陵に退位及びその期日を奉告し幣物を供へるために勅使を派遣される儀式	平成三十一年 三月十二日	御所	
○神宮に奉幣の儀 神宮に退位及びその期日を勅使が奉告し幣物を供へる儀式	平成三十一年 三月十五日	神宮	
○神武天皇山陵及び昭和天皇以前四代の天皇山陵に奉幣の儀 神武天皇山陵及び昭和天皇以前四代の天皇山陵に退位及びその期日を勅使が奉告し幣物を供へる儀式	平成三十一年 三月十五日	各山陵	
○神武天皇山陵に親調の儀 退位に先立ち、神武天皇山陵に天皇が拝礼される儀式	平成三十一年 三月二十六日	神武天皇 山陵	
○神宮に親調の儀 退位に先立ち、神宮に天皇が拝礼される儀式	平成三十年 四月十八日	神宮	
○昭和天皇山陵に親調の儀 退位に先立ち、昭和天皇山陵に天皇が拝礼される儀式	平成三十年 四月下旬	昭和天皇 山陵	
○退位礼当日賢所大前の儀 退位礼の当日、賢所に天皇が退位礼を行うことを奉告される儀式	平成三十年 四月三十日	賢所	
○退位礼当日皇靈殿神殿に奉告の儀 退位礼の当日、皇靈殿神殿に天皇が退位礼を行うことを奉告される儀式	平成三十年 四月三十日	皇靈殿、 神殿	
○退位礼正殿の儀 退位を広く国民に明らかにするとともに、天皇が退位前に最後に国民の代表に会はれる儀式	平成三十一年 四月三十日	宮殿	
○剣璽等承継の儀 即位に伴い剣璽等を承継される儀式	即位の年(以下 同じ)の五月一日	宮殿	

名称及び概要	期日	場所	備考
○即位後朝見の儀 即位後初めて国民の代表に会はれる儀式	五月一日	宮殿	
○賢所の儀 賢所に皇位を継承されたことを奉告する儀式	五月一日～三日	賢所	御代拝
○皇靈殿神殿に奉告の儀 皇靈殿神殿に皇位を継承されたことを奉告する儀式	五月一日	皇靈殿、 神殿	御代拝
○賢所に期日奉告の儀 賢所に天皇が即位礼及び大嘗祭を行う期日を奉告される儀式	五月八日	賢所	
○皇靈殿神殿に期日奉告の儀 皇靈殿神殿に天皇が即位礼及び大嘗祭を行う期日を奉告される儀式	五月八日	皇靈殿、 神殿	
○神宮神武天皇山陵及び昭和天皇以前四代の天皇山陵に勅使発遣の儀 神宮並びに神武天皇山陵及び昭和天皇以前四代の天皇山陵に即位礼及び大嘗祭を行う期日を奉告し幣物を供へるために勅使を派遣される儀式	五月八日	宮殿	
○神宮に奉幣の儀 神宮に即位礼及び大嘗祭を行う期日を勅使が奉告し幣物を供へる儀式	五月十日	神宮	
○神武天皇山陵及び昭和天皇以前四代の天皇山陵に奉幣の儀 神武天皇山陵及び昭和天皇以前四代の天皇山陵に即位礼及び大嘗祭を行う期日を勅使が奉告し幣物を供へる儀式	五月十日	各山陵	
○斎田点定の儀 悠紀及び主基の両地方、斎田を設ける地方を定めるための儀式	五月十三日	神殿	
(大嘗宮地鎮祭) 大嘗宮を建設する予定地の地鎮祭	別途決定	皇居 東御苑	
(斎田拔穂前一日大祓) 斎田拔穂の儀の前日、拔穂使始め関係諸員のお祓ひをする行事	斎田拔穂の儀 の前日	別途決定	
○斎田拔穂の儀 斎田で新穀の収穫を行うための儀式	秋	斎田	

名称及び概要	期日	場所	備考
(悠紀主基両地方新穀供納) 悠紀主基両地方の齋田で収穫された新穀の供納をする行事	別途決定	皇居	
○即位礼当日賢所大前の儀 即位礼の当日、賢所に天皇が即位礼を行うことを奉告される儀式	十月二十二日	賢所	
○即位礼当日皇霊殿神殿に奉告の儀 即位礼の当日、皇霊殿及び神殿に天皇が即位礼を行うことを奉告される儀式	十月二十二日	皇霊殿、 神殿	
○即位礼正殿の儀 即位礼を公に宣明されるとともに、その即位を内外の代表がことほぐ儀式	十月二十二日	宮殿	
○祝賀御列の儀 即位礼正殿の儀終了後、広く国民に即位を披露され、祝福を受けられるための御列	十月二十二日 十月二十一日、 二十五日二十九日 及び三十日	宮殿 (赤坂御用地)	
○饗宴の儀 即位を披露され、祝福を受けられるための饗宴		宮殿	
◇内閣総理大臣夫妻主催晩餐会 即位礼に参列した外国の元首、王族、首相その他の外国代表、駐日大使等のための晩餐	十月二十三日	都内	
△一般参賀 即位礼の後、一般国民の祝福を皇居で受けられる行事	十月二十六日	宮殿東庭	
○神宮に勅使発遣の儀 神宮に大嘗祭を行うことを奉告し幣物を供へるために勅使を派遣される儀式	十月八日	宮殿	
(大嘗祭前二日御禊) 大嘗祭の前日、天皇及び皇后のお祓ひをする行事	十一月十二日	皇居	
(大嘗祭前二日大祓) 大嘗祭の前日、皇族始め関係諸員のお祓ひをする行事	十一月十二日	皇居	
○大嘗祭前二日鎮魂の儀 大嘗祭の前日、すべての行事が滞りなく無事に行はれるやう天皇始め関係諸員の安泰を祈念する儀式	十一月十三日	皇居	
(大嘗祭前一日大嘗宮鎮祭) 大嘗祭の前日、大嘗宮の安寧を祈念する行事	十一月十三日	皇居 東御苑	
○大嘗祭当日神宮に奉幣の儀 大嘗祭の当日、神宮に大嘗祭を行うことを勅使が奉告し幣物を供へる儀式	十一月十四日	神宮	

名称及び概要	期日	場所	備考
○大嘗祭当日賢所大御饌供進の儀 大嘗祭の当日、賢所に大嘗祭を行うことを奉告し御饌を供へる儀式	十一月十四日	賢所	御代拝
○大嘗祭当日皇霊殿神殿に奉告の儀 大嘗祭の当日、皇霊殿及び神殿に大嘗祭を行うことを奉告する儀式	十一月十四日	皇霊殿、 神殿	御代拝
○大嘗宮の儀 悠紀殿供饌の儀 主基殿供饌の儀 天皇が即位の後、大嘗宮の悠紀殿及び主基殿において初めて新穀を皇祖及び天神地祇に供へられ、自らも召し上がり、国家国民のためにその安寧と五穀豊穡などを感謝し、祈念される儀式	十一月十四日 十一月十五日	皇居 東御苑	
(大嘗祭後一日大嘗宮鎮祭) 大嘗祭の翌日、大嘗宮の安寧を感謝する行事	十一月十六日	皇居 東御苑	
○大饗の儀 大嘗宮の儀の後、天皇が参列者に白酒、黒酒及び酒肴を賜り、ともに召し上げる饗宴	十一月十六日 及び十八日	宮殿	
○即位礼及び大嘗祭後神宮に親謁の儀 即位礼及び大嘗祭の後、神宮に天皇が拝礼される儀式	別途決定	神宮	
○即位礼及び大嘗祭後神武天皇山陵及び昭和天皇以前四代の天皇山陵に親謁の儀 即位礼及び大嘗祭の後、神武天皇山陵及び昭和天皇以前四代の天皇山陵に天皇が拝礼される儀式		神宮に親謁の 儀の後 各山陵	
△茶会 即位礼及び大嘗祭の後、京都に行幸の際、古来皇室に御縁故の深い近畿地方の各界の代表等を招いて行はれる茶会		京都に行幸の際	京都御所
○即位礼及び大嘗祭後賢所に親謁の儀 即位礼及び大嘗祭の後、賢所に天皇が拝礼される儀式	神宮及び各山陵 に親謁の後	賢所	
○即位礼及び大嘗祭後皇霊殿神殿に親謁の儀 即位礼及び大嘗祭の後、皇霊殿神殿に天皇が拝礼される儀式	同日	皇霊殿、 神殿	
○即位礼及び大嘗祭後賢所御神楽の儀 即位礼及び大嘗祭の後、賢所に御神楽を奏する儀式	同日	賢所	
(大嘗祭後大嘗宮地鎮祭) 大嘗祭の後、大嘗宮を撤去した跡地の地鎮祭		皇居 東御苑	

(注) 1 ○は、国事行為として行はれ、◇は、政府主催行事として行はれる。  
2 ○は、大札関係の儀式、△は、大札関係の行事であり、( ) 書きは、儀式に関連する行事である。  
3 名称及び期日については、変更があり得る。



# 札幌まつり 今昔

北海道神宮の例祭が「札幌まつり」と呼ばれるのは戦前、札幌神社例祭を「札幌祭」と称したことによります。祭りが盛大になるにつれ、神社の例祭とその後のお祭りを総称して「札幌まつり」と呼ばれるようになりました。

## 渡御のはじまり

明治十二年六月十五日、南一条東三丁目の現在の頓宮の地に神道の教化活動の中心施設ともいえる神道中教院が落成し、その神殿にお祈りする神霊を札幌神社から神輿でお移しをしたのが神輿渡御のはじまりです。札幌神社が鎮座した円山の地は札幌の市街より離れ（約四キロメートル）、特に冬期は参拝も不可能となる状態で、同年八月七日には神道中教院の施設が札幌神社の遙拝所を兼ねることとなりました。

神輿の渡御にあたって薄野の芸妓、常磐津連

中などが車（二百でくりだし、神輿を迎えたいわれ、これが札幌まつりの山車の始まりとされています。また、同年八月、住民からの申し出により、宮司から内務省あてに神輿の渡御を以後恒例とし、費用はすべて氏子の奉賛によりたいとの願を出し、これが許可されました。当時は神輿一基が本社と遙拝所との間を巡幸し、円山村や札幌区の世話人が奉仕にあたりました。明治二十六年になると、札幌区を四区に分け祭典区が成立し、祭典の奉仕にあたりました。明治三十二年には祭典区は八区になり、翌三十三年より年番制が採用され、明治四十年にはそれまで交渉委員と呼ばれていた世話人の名称を現在の代表委員と改めました。



山車(昭和初期)

## 敬神講社と維新勤王隊

大正十五年従来の祭典区組織を発展的に解消して札幌敬神講社が設立され、例祭の神輿の渡御をはじめ神社の維持に奉賛する崇敬者団体となりました。また、同年円山村に円山敬神講社が設立されました。この年の年番は第一区であったことからこれを記念して、京都の平安神宮の時代祭の維新勤王隊を移すこととなり、京都より楽士を招き楽士隊を養成し、各祭典区から兵士の役を割り当て、神輿渡御のさきがけとなりました。



維新勤王隊隊長及び司令

敬神講社はその後発展を遂げ、昭和十五年の公区制実施により、従来の祭典区の

区割は町内会組織である十六の聯合公区となり、札幌市の公的な行政、生活の区分となりました。

翌十六年には円山町が札幌市と合併したため、円山敬神講社は札幌敬神講社と合併しました。ちなみに当時の祭典区は十九区でした。札幌市の発展とともに敬神講社の祭典区は増加し、平成三十二年現在三十二区となっています。

## 渡御の移り変わり

### 神輿の変遷

明治十一年の渡御の始まりは神輿二基のみでしたが、官幣大社に昇格した明治三十二年からは三基となりました。開道五十年をむかえた大正七年に神輿は鳳輦形式で新調され、代表委員は狩衣で供奉し、同十五年には維新勤王隊が供奉することになりました。

渡御の巡路は当初から南二条東三丁目の頓宮を御旅所として宿泊するならわしで、この祭典は明治時代「区祭」と称され、札幌区民はこぞつて奉賛しました。戦中昭和十九年、二十年の中断ののち、二十二年からは渡御は復活し、同二十九年からは、それまで輿丁により昇がれていた鳳輦を御所車にすえ、馬が引く

形式となりました。

昭和三十九年には明治天皇が鎮座され北海道神宮と改称されたので、翌四十年からは神輿も四基の鳳輦となり、同四十四年に従来の開拓三神の鳳輦も新調されました。

昭和四十年は鳳輦をトラックにすえて、全市を二日間で渡御をしましたが、このような渡御の姿は二年限りで中止になりました。

昭和五十七年人身事故発生のため、同五十九年からは馬の使用を全廃し、鳳輦は黄色の装束をつけた輿丁が昇ぐようになりました。

戦前、戦後を通じ六月十五、十六、十七日の三日間の渡御をおこない頓宮にお泊まりになりましたが、昭和四十二年からは十六日の一日のみで、十七日には後日祭を執行することとなりました。

## 万灯

大正四年六月十四日、円山の本社でおこなわれる宵宮祭に祭典区の氏子等が頓宮から提灯行列を組んで参拝しました、『社務日記』には『数千ノ万灯ヲ点ジ』とありその盛況がしのべれます。現在はその行列の先頭をつとめた笛太鼓のお囃子と手古舞だけが残って万灯保存会に伝承されています。

今日でも六月十四日の宵宮祭には午後五

時、年番区の講長以下の役員が狩衣等の礼服をつけて万灯が先頭になり第二鳥居から参進して昔のなごりをとどめています。また、この万灯は十六日の御神幸と各地域の山車の先頭をつとめ先太鼓ともよばれています。



万灯(大正時代)

## 山車

山車は明治十二年の渡御の始まりより簡易なものが出ていました。明治二十九年には四基の山車がにぎにぎしく市中を練り歩きました。大正七年には十二区あつた祭典区が山車を出すことになりました。現在は九つの祭典区が山車を所有しております。

神輿渡御に彩りを添えたのが山車で、神輿を奉迎し、各山車ごとに独特の囃子を奏でながら市内を練り歩く姿はまさに「ふるさと」の文化遺産といえるでしょう。

## 北海道神宮

# 御鎮齋百五十年

明治元年三月九日、明治政府は北方の領土守護と北海道開拓を国是として、蝦夷地開拓の事を決定し、鍋島直正公を開拓督務に任じて開拓に着手することになりました。明治二年七月には開拓使という役所が置かれ、初代長官に鍋島直正公が就任し、第二代目の長官には東久世通禧が就任しました。

明治二年九月一日に東京の神祇官にて北海道の国土の神である大国魂神、国土経営、開拓の神として知られる大那牟遲神、少彦名神を祀る「北海道鎮座神祭」が行われました。これが北海道神宮の創祀とされています。

本年はこの「北海道鎮座神祭」から百五十年の佳節の年にあたります。この記念すべき年を、皆様と共に奉祝すべく、いくつかの記念事業を予定しております。具体的に決まり次第ご案内申し上げますので、ご協力の程を宜しくお願い致します。

## 記念事業(予定)

本年は本社御鎮齋百五十年を迎え、また御代替りの佳節にもあたることから、これらを奉祝して各種の記念事業を予定しています。その主な項目は次のようになっています。

- ◆ 御大典並北海道神宮御鎮齋百五十年奉祝祭の斎行
- ◆ 社殿調度及び吊り灯籠の新調、修繕
- ◆ 境内及び施設整備事業
- ◆ 記念講演の開催
- ◆ 特別展示会の開催
- ◆ 奉祝行事の開催
- ◆ 記念書籍の刊行
- ◆ 奉祝記念品の作成
- ◆ その他





# 社頭風景

十二月  
三月上旬

## 天長祭

天皇陛下には十二月二十三日、満八十五歳の御誕生日をお迎えになりました。北海道神宮ではこれをお祝いして、当日午前十時より天長祭を斎行しました。

宮司以下祭員、祓所にて修祓の後、本殿に進み、巫女による「悠久の舞」を奉納し、一同で「天長節」を唱和し、宮司以下祭員・参列者が玉串を以て拝礼して宏遠悠久なる聖寿の万歳を言祝ぎました。

祭典終了後、参列者には奉祝の紅白饅頭が配られ、引き続き参集殿で直会が行われました。



「悠久の舞」

## 師走の大祓・除夜祭

十二月三十一日(月)午後三時より師走の大祓を神門下の祓所にて斎行しました。

吉田宮司以下祭員、祓所に参進し、大祓詞奏上の後、参列者と共に切り麻で身を祓い、続いて本殿に於いて除夜祭を執り行いました。祭典終了後は参列

者にはお守りと撤下品が授与され、心身の健全が祈られました。当日は寒い中にも関わらず、約千名の方が参列なさいました。

北海道神宮では、六月三十日と十二月三十一日の年二回大祓の行事を斎行しています。この大祓は人が知らず知らずのうちに犯してしまった罪や穢れを祓い、心身共に健全となつて生きる力を神様より授かる行事でもあります。皆様お誘い合わせの上お参り下さい。



師走の大祓

北海道神宮  
年末・年始



元旦 社頭



餅つき(12月27日)



煤払い(12月26日)



元始祭(1月3日)



歳旦祭(元旦)



祈請祭(1月27日)



昭和天皇祭遙拝(1月7日)



## 古神札焼納祭

一月十四日(月)北海道神宮境内弓場に於いて、古神札焼納祭を斎行しました。古神札焼納祭は、皆様方が一年に亘り御守護頂きました御守・御札をはじめ、年末から松の内にかけて神棚や玄関などに飾られた正月飾り(注連縄や門松など)を、感謝の真心を捧げて神社に返納して頂き、これを神職が祓い清め御神火をもって焼納する神事です。当日は多くの参列者の見守る中、北海道神宮校祇講の方々の奉仕を頂き無事終了しました。



古神札焼納祭

## 第九回新成人寒中禊会

一月二十七日(日)第九回新成人寒中禊会が行われました。

参加者は奉告祭参列の後、禊についての講話と禊中に行う動作の指導を受け、正午より禊会が開始されました。



寒中禊

日が照りながらも厳しい寒さの中、十九人の参加者は全員、元氣良く禊を納めることが出来ました。参加者からは「凍えるような寒さの中で、冷たい水をかぶるこの寒中禊を、最後までやり通したことに自信を持ち、これから頑張るって行きたい。」という感想がありました。

## 心游舎ワークショップ

一月十九日(土) 彬子女王殿下には北海道神宮を御参拝されました。

翌二十日(日)には彬子女王殿下が総裁を務められております一般社団法人心游舎のワークショップが参集殿にて開催されました。日本画家の神戸智行氏を講師として迎えた「墨絵ワークショップ」に約四十名の子供達が参加し、筆と墨を使って個性的な絵を描きました。白抜きと呼ばれる技法で全員で協力して描いた雪の絵は大迫力の作品となりました。



ワークショップ



## 節分祭

二月三日(日)午後三時より本殿にて節分祭が斎行され、終了後、神門内に設けられた特設舞台では豆打ち行事が行われました。

北海道神宮舞楽会による三条神楽の笛・太鼓に合わせ、金棒を振り回す赤鬼・青鬼が登場し、袴姿の年男・年女の方々が「鬼は外・福は内」の掛け声と共に豆を撒き、鬼は二目散で退散し参加者より大きな拍手が沸き起りました。続いて恵比須・大黒が登場し邪気を祓った旨が告げられると、二陽来復を願って福銭や紅白餅が撒かれ、境内は集まった人々の春を迎える歓声に包まれました。



豆打行事

## 紀元祭



祝詞奏上

神武天皇が橿原の宮で天皇の位にお登りになられてより、二千六百七十九年にあたります。

二月十一日(月・祝)午前十時、北海道神宮では神武天皇の偉業を景仰し紀元祭を厳粛に斎行しました。祭典では神武創業を言祝ぐ祝詞の奏上、巫女による「豊栄の舞」の奉奏を行い、参列者一同で高崎正風作詞の「紀元節」を高らかに唱和し、「八紘を掩ひて宇と為ん」との詔にある理想を振り返り、神武建国を偲びました。

## 祈年祭

祈年祭とは「としこいのまつり」と訓みます。ここでいう「年(とし)」とは稲の意味で、稲は勿論、様々な農作物や海の幸、山の幸などの豊作・豊漁を祈る大切なお祭りの一つとされています。北海道神宮でも二月十七日(日)午前十時に斎行し、祝詞奏上、巫女による「迦陵頻」の奉奏、玉串を奉り拝礼を行い豊かな実りを祈念しました。



海の幸・山の幸を供する



「豊栄の舞」

お祈りさせていただき  
ました。祝詞奏上に続  
き、巫女による神楽  
「豊栄の舞」が奏され  
た後、参列者が玉串を  
捧げてこの日をお祝い  
しました。祭典の終わ  
りには参列者に記念  
品が配られました。

## 天皇陛下御即位 三十年奉祝祭

畏くも天皇陛下におかせられましては、御即位三十年の佳節を迎えられました。政府は二月二十四日(日)に、天皇・皇后両陛下の御臨席のもと、天皇陛下御在位三十年記念式典を執り行いました。全国の神社ではこれにあわせて、天皇陛下御即位三十年奉祝奉告祭をご奉仕しました。北海道神宮では午前十時より奉祝奉告祭を斎行し、天皇陛下が常に国民に寄り添われ、国の発展と国民の生活の安寧に大御心を賜われてこられたことへの感謝と、皇室の弥栄を

## 建国記念の日 奉祝道民の集い

二月十二日(月)祝 午後一時よりホテルロイトン札幌で日本会議北海道本部の主催にて約六百名の参加者で開催されました。「オープニングセレモニー」として和太鼓TAWOO(タオ)北海道により「海道東征」が演奏されました。

第二部式典では皇城、樞原神宮遥拝、国家斉唱の後、日本会議北海道本部理事長田下昌明氏より挨拶が述べられ、高橋はるみ北海道知事(代理)、北海道副知事辻泰弘氏)、自民党札幌会長高木宏壽氏、衆議院議員船橋利実氏より祝辞が述べられました。



奉祝パレード

第二部では、講師としてジャーナリストの井上和彦先生をお迎えし、「知られざる感動の日本近現代史」との演題でご講演を頂きました。「平成三十年は

第一次世界大戦終戦並びにパリ講和条約締結百年にあたり、我が国は戦勝国として講和条約に臨み、世界で初めて人種差別撤廃を訴えた。先人の偉業を決して忘れてはならない。その歴史的事実を国民挙って称え、日本人の誇りを取り戻そう」と力説されました。その後、第三部として参加者による奉祝パレードがホテルロイトン札幌より大通西丁目まで行われました。

## 北海道神宮収蔵品 展示

石川県九谷焼美術館に於いて、二月九日(土)から四月七日(日)まで開催された

特別展「ナゾの陶磁器 函館焼と蝦夷試制」に北海道神宮の収蔵品が展示されました。



北海道神宮収蔵品「アイヌ曲馬図版画」



## 年末・年始

北海道神宮頓宮（札幌市中央区南二条東三丁目）に於いて、年末・年始の諸祭典・諸行事が滞りなく行われました。

昨年十二月三十日（月）午後三時より、本殿にて師走の大祓が斎行され約百五十名の参列者一同で心身を祓い清めた後、引き続き除夜祭が執り行われました。



古神札焼納祭



豆打ち行事

元旦（火）午前十時より、本殿に於いて歳旦祭並びに二日講社誕生祭を約四十名の参列者により行われました。

一月十四日（月）午前十時より、古神札焼納祭が地域消防団の方々のご協力の下に行われました。

二月三日（日）午後五時より、節分祭が本殿に於いて約四十名の参列者にて斎行され、引き続き午後五時三十分より境内に於いて豆打ち行事が行われました。

## ひな人形展

北海道神宮では、豊かな四季折々のなかで営まれてきた年中行事を通して、我が国の伝統・文化に触れていたかどうかと、祈禱者控殿に於いて二月七日（木）より三月十八日（月）までひな人形展を行いました。

札幌在住の人形作家である山田祐嗣氏所蔵の明治から昭和までの人形と、当別町の甲斐の会作製の吊し雛の展示を行い多くの参拝者の方々より好評を頂き終了しました。



控殿でのひな人形展



特集

がんばれ！  
北海道

開拓の群像特集

合田 一道



歴史から見えるもの ④6

## 傷病兵守った幕医 高松凌雲

高松凌雲は久留米藩内の床屋の三男に生まれ、長じて江戸三河町の蘭方医、石川玄貞の弟子になります。石川は



高松 凌雲

安政のコロナ大流行期に多くの患者を治癒し、幕府奥医師に取り立てられました。

凌雲はその師の推挙で二橋慶喜のお抱え医師になり、慶喜が徳川を名乗って将軍になると、幕府奥詰医師になったのです。破格の出世でした。

だが幕末期の世は激しく揺れ動いていました。パリ万国博覧会に、將軍慶喜の名代として実弟の昭武に従い訪仏します。この間に慶喜は大政を奉還し、戊辰戦争が起こると朝廷は、慶喜らを賊軍として追討令を発します。

凌雲らが急ぎ帰国した時、国内は真つ二つに割れ、騒然となっていました。榎本武揚のもとに、徹底抗戦を叫ぶ旧幕府の武士たちが続々と集まってきました。凌雲もすぐ駆けつけました。凌

雲の実兄の古屋佐久佐衛門も衝鋒隊を率いて参加しました。総員二千数百。

慶応四年八月、榎本率いる旧幕艦隊八隻は江戸・品川沖を出帆し、奥羽へ向かいました。だが奥羽列藩同盟の盟主仙台藩は恭順。榎本は艦隊を整えて明治元年十月二十日、蝦夷地の噴火湾鷲ノ木沖へ。嘆願書を持った使者の先発隊が峠下の旅籠で新政府軍に襲撃されました。凌雲は医療器具を抱えて現場へ駆けつけ、負傷者を治療しました。

五稜郭に無血入城した榎本は蝦夷島臨時政権を樹立すると、凌雲に病院頭取(院長)を要請しました。凌雲は「病院の全権を委託する」との条件で受託すると、会津藩の小野権之丞を病院掛(事務長)にしました。

年が明けて明治二年四月、新政府軍が攻め込んで、各地で戦闘が繰り広げられました。湯の川の野戦病院は負傷者で溢れ、新たに高龍寺を分院にして負傷者を収容しました。

五月十一日は「箱館総攻撃」の日。分院が気になつてならない凌雲は高龍寺へ赴くと、畳を積み上げ、戦闘体制を敷いています。凌雲は「ここは病院だ。戦いの場ではない」と諭しました。

箱館病院に戻ると、新政府軍の兵士らが押しかけ、皆殺しにしようとしたのです。凌雲は「ここは病院で、敵対するものではない」と訴えました。そこへ薩摩の指揮官が現れ、凌雲の態度を讃え、「薩摩改め」と書いて去つたのです。

ところが高龍寺分院は壮絶な事態に陥っていました。新政府軍である松前、津軽藩兵が発砲しながら白刃を抜いて乱入し、病院掛をはじめ、病床の傷病兵ら十数人を次々に殺害して、火を放つたのです。生きたまま焼き殺された人もい

ました。同寺境内に「傷心惨目」の碑が立つていません。

五稜郭に憂色が濃くなりました。新政府軍の薩摩藩士数人が病床の会津藩士、諏訪常吉を訪れ、和平交渉の仲介を頼みました。重態の諏訪はすべてを凌雲と小野に任せました。

凌雲は五稜郭の榎本と弁天台場に書状を書きました。だが榎本はこれを拒絶し、傷病兵、少年兵を湯の川の野戦病院へ移るのを頼み、オランダで学んだ「海上万国法」二冊が兵火に焼失するのは忍びないとして、新政府軍に贈つたのです。

感嘆した新政府軍参謀の黒田清隆が返礼に酒を贈り、その夜、榎本が自決を計つて失敗。これにより箱館戦争は終焉になるのです。

医師高松凌雲という人物が、箱館戦争に大きく関わっていたことがわかりますね。



「傷心惨目」の碑＝高龍寺境内(函館)

### ◆プロフィール◆

昭和九年(一九三四年)、空知郡上砂川町生まれ。北海道新聞に入社し、道内各地を回る。在職中からノンフィクション作品を発表。『定山坊行方不明の謎』で北海道ノンフィクション大賞を受賞。退職後は札幌大学文化学部講師。著書は『日本史の現場検証』『人間登場』北の歴史を彩る『大君の刀』など。

# 奉賛会だより

## 北海道神宮奉賛会

### 『大祭』並びに『総会』のご案内

奉賛会会員の「家内安全・心身健全・生業繁栄」を祈願する『大祭』と『総会』を左記のとおり開催いたします。

会員の皆様には、万障お繰り合わせの上、ご参列ご出席賜りますようご案内申し上げます。

#### ◆日程

令和元年五月十一日(土)

午後一時三十分

『大祭』(本殿)

引き続き

『総会』(参集殿)

#### ◆総会議事

一、平成三十年度

事業報告並びに

収支決算の件

一、平成三十一年度事業計画(案)

並びに収支予算(案)の件

### 新入会員・協賛者のご紹介

当会へのご入会・ご協賛を頂きまして、まことに有り難うございます。

平成三十年十二月から三十一年二月末日までのご入会の方、また会費以外にご協賛頂きました方のご芳名をご報告致します。お名前漏れ等がございましたら、お手数ですが事務局までご連絡下さい。

(敬称略・順不同)

### 新入会員のご紹介

今井 文彦	坂口 利明	アミーケ・インターナショナル株式会社	新築工建株式会社	株式会社プリマクラッセ	特定非営利活動法人日本園芸療法士協会
伊藤 浩樹	伊藤 浩樹	新栄 孝史	新栄 浩子	理事長 瀬山 和子	
近藤 道子	阿部 圭馬	細田 恭秀	高橋 俊博	笹木 奈津美	伊藤 裕

### 協賛者のご紹介

◇五万円

㈱東家寿楽 代表取締役 佐藤 元治

◇四万円

ALSO K北海道株式会社

◇三万円

神坂 義明

田中 則久

◇二万円

紀野 武夫

㈱大栄機工

北陽ビルサービス㈱ 代表取締役 其田 雅人

ホクエウテクニカ㈱ 代表取締役 北越 孝

長谷機械商事㈱

福士 郁弘

三王印刷㈱

三上 直彦

㈱カネイ小川

米田 光秀

鈴木 一司

㈱丸中 中島商店

吉尾病院

㈱わかさいも本舗

吉岡砕石工業㈱

津島 明美

㈱株式会社町村農場

代表取締役 津島 明美

ハラク工業株式会社

代表取締役 藤野 徹弥

㈱裕多加ショッピング

銘酒の裕多加 熊田 裕一

㈱北陽写真場

代表取締役社長 小田切 修

㈱中村物流

代表取締役社長 中村 紀行

平山 晃也

越前屋 薫

大島 恵子

北海道日通プロパン販売㈱

◇五千元

下前 良

川口 典昭

八尾師 絹子

寺島 典男

山崎 新一

庄田 澄子

山本 巖

大坂 輝子

㈱株式会社シグナル

代表取締役 赤沼 泰弘

坂本 和也

北洋設備㈱

㈱みづら保険事務所

代表取締役 三浦 昭男

藤田 勝也

盛 まなみ

㈱女子道社

中村 利義

高柳 節子

大黒 恵美子

河原 清光

市橋 武道

新岡 正

西村 武

牧 康浩

深尾 喜陸

医療法人社団 宮の森皮膚科

植木 光敏

中能 雅和

宮治 理陽

真田 修一

高木 宣義

佐々木 立美

小笠原 文男

寺沢 一敏

藤江 岩男

藤崎 雅士

本山 公人

有我 充人

重森 覺

出村左官工業㈱

㈱喜久一本店

横山 末雄

菊池 誓子

松野 丈夫

住職 田中 清元

大乗院薬王寺

㈱タイコ企画サービス

代表取締役 有我 充人

仕出し弁当・お料理 花かんむり

重森 覺

出村左官工業㈱

㈱喜久一本店

横山 末雄

菊池 誓子

赤沼 泰弘

三浦 昭男

盛 まなみ

㈱女子道社

中村 利義

高柳 節子

大黒 恵美子

河原 清光

市橋 武道

新岡 正

西村 武

牧 康浩

深尾 喜陸

医療法人社団 宮の森皮膚科

植木 光敏

中能 雅和

宮治 理陽

真田 修一

高木 宣義

佐々木 立美

鳥居 幸子  
 西野 浩  
 金野 シゲ子  
 河島 英二  
 對馬 眞智子  
 森越 正弘  
 熊谷 巨泰  
 市山 義晴  
 山本 晃靖  
 駒野 幸一  
 玉置 重俊  
 有興社 ココウエスト 取締役社長 大西 仁詩  
 桜井 和久  
 竹田 博泰  
 (株)花田新聞店 花田 定男  
 庄内 喜久子  
 合同会社 若駒 代表取締役 櫻井 慶一  
 油井 昭造  
 (医)西野おおくほ整形外科 大久保 隆夫  
 大島 佳子  
 八田 志津江  
 渡邊 靖司  
 (有)小泉建業  
 松本 武志  
 西山 眞吾  
 鈴木 憲治  
 我妻 慶祐  
 山崎 勝  
 (有)岩佐新聞販売所  
 齊藤 寧・久美子  
 佐藤 文雄  
 佐藤 幸枝  
 沼倉 雅治  
 山本内科眼科クリニック 山本 秀樹  
 大田 秀造  
 北海道電子機器(株)  
 士別神社  
 藤井 浩二 佐藤 公聰  
 佐藤 秀樹  
 (株)加藤物産館  
 渋谷ネーム工芸 渋谷 十九男  
 紫藤 正行  
 寺島 博美  
 伊勢絵馬  
 タスキンあいとびあ  
 山口 日出志

◇三千円他  
 吉田 昂子  
 繩 健一  
 武田 美喜男  
 薄田 治夫  
 馬酔木 洋子  
 林 晴二  
 小野 まき子  
 作井 睦子  
 信本 明子  
 岩間 邦子  
 佐々木 幸雄  
 永森 奨樹  
 関口 フミ子  
 鎌水 博樹  
 佐藤 哲也  
 塩澤 三枝子  
 スズキ齒科  
 平間 美枝  
 佐藤 久直  
 鈴木 良江  
 東 重孝  
 泰生汽船(株)  
 杉本 昌二  
 杉山 陽子  
 武田 美奈子  
 金野 イシ  
 加藤 淳子  
 山吹 由晴  
 神 忠弘  
 吉田 法子  
 小坂 紀夫  
 妻木 悦朗  
 (株)都心ビル  
 (株)パンテック  
 松村 将之  
 菅原 浩了  
 齋藤 恭令  
 佐々木 國雅  
 山坂住設サービス  
 高梨削蹄  
 宮の森幼稚園  
 村上 隆盛  
 稲葉 順志  
 廻能文  
 大関 雅朗  
 前田 憲太郎  
 佐々木 都紀子  
 中西 昭弘  
 佐竹 賢一  
 瀬能 克彦  
 福園 敏行  
 田中 美知子  
 (株)まるいち  
 木村 美智子  
 笹 英二  
 多田 良子  
 寺井 伸  
 水上 正裕  
 長谷川 博康  
 宮下 奈巳  
 岡川 一  
 伊藤 ミノル  
 今川 昌樹  
 佐藤 勇  
 西村 ちよし  
 今野 豊  
 藤井 一徳  
 長田 博  
 安部 布実子  
 ため小児科医院  
 井場 将夫  
 井場 一恵  
 佐々木 真次  
 桑原 啓行  
 (株)君津特殊  
 三浦 和夫  
 中田 克幸  
 税理士法人さっぽろ税務会計 代表社員 阿部 真澄  
 阿部 真澄  
 富田 登代子  
 松野 敏昌  
 村本 吉雄  
 佐藤 チヨ  
 水上 信吉  
 福田 賢治  
 仁科 啓孝  
 林 辰司  
 浜本 茂  
 菅原 政浩  
 金坂 孝敏  
 長尾 康弘  
 齋藤 友子  
 院長 多米 豊

菅原 政輝  
 坂尾 晃司  
 栗田 勝一夫  
 白澤 一郎  
 南部 士郎  
 内田 昇  
 情野 隆  
 湊 堅治  
 (有)フアインテクノ  
 鈴木 伸浩  
 小山内 清  
 工藤 政宣  
 西田 善彦  
 坂尻 康平  
 富山 光博  
 宮村 謙一郎  
 久保 剛  
 辻 祐二  
 上原 善美  
 香川 睦美  
 梶田 宏一  
 武田 勇助  
 北海道科学技術研究所  
 伊藤 勇一  
 三浦 清志  
 宮腰 喬  
 山田 祐三  
 三上 政輝  
 本田 忠  
 本田 恭子  
 中川設計房  
 堀井 重克  
 (株)エビスビル 代表取締役 安藤 與志之  
 多田 洋子  
 田中 美保子  
 藤本 桂  
 菅沼 文昭  
 (株)コスモサービス 代表取締役 新保 皓司  
 遠田 深雪  
 鶴戸 晏子  
 久保田 眞理子  
 庄司 隆則  
 浜本 英之  
 安井 陽一・香奈子  
 中川 義規  
 茅根 米久  
 狩 良一





御田植祭

---

北の志づめ 第205号

平成31年4月1日発行

---

〒064-8505  
札幌市中央区宮ヶ丘474  
電話 011-611-0261  
FAX 011-611-0264

北海道神宮社務所